

今日は先週と同じような内容の福音が読まれました。

旧約聖書と新約聖書に出てくる金持ちのイメージは違います。旧約では、金持ちは尊敬を受ける人の一人です。ご主人を亡くした女性を引き取って世話をする、神様から恵みを頂いて貧しい人に施しをするイメージです。しかし、新約でイエス様の口を通して言われる金持ちは違います。それは利己的な人を言います。

今日の福音は、金持ちと貧しいラザロという少年の話ですね。貧しいラザロは身体中にできものができていて食べる物もなく、金持ちの門の前に横たわっていました。金持ちはそのことを気にもとめず贅沢に暮らしていました。ラザロはみじめな状態で死にましたが、アブラハムが迎えにきて天の宴席でなくさめを受けました。金持ちは死んで陰府に落ち、上を見上げたらラザロがアブラハムのそばにいたので、水で自分の舌を冷やして欲しいとせつない要求をしています。

先週も申し上げましたが、お金を儲けることはそんなに罪ではありません。では、この金持ちとラザロの差は何でしょうか？ 私の目にはこのように見えます。この金持ちは、関心を持つべきものに関心を持たなかった。無関心という罪です。ラザロに何か悪いことをしたわけではありません。イエス様が批判する金持ちとは、お金を持っている者として、関心を持つべきことに無関心だった者のことです。物があれば物に関心がいきますから、見える視野がだんだん狭くなり他が見えなくなります。お金があると権力や社会的地位等を持ち、その便利さによって心を失ってしまうことをイエス様が冷静に批判しているのです。新約聖書にも金持ちが悔い改めて、イエス様のみこころにかなう姿がたくさんあります。徴税人の話ですね。金持ちであることを批判したのではなく、また、お金が嫌いでお金を批判したのでもありません。あなたにとって大事なことを認めてそれをしなさい、ということを書いていらっしゃるのです。

もうひとつの話をしてしましましょう。ある川に二匹の魚がいました。エサを捕るために泳いでいたら、おいしそうなミミズが見えました。一匹の魚がもう一匹に「あのミミズの中には釣り針が入っていて、その釣り針には釣り糸がついていて、その上には釣り竿があって、それを人が握っているんだよ。だから、あのミミズを食べると人に捕まって、鉄板にのせられてしまうよ」と言いました。するともう一匹は「それは子供の時によく聞いたおばあさん達の作り話だよ。私は作り話は信じないよ」と言ってミミズを食べ、結局鉄板にのせられてしまいました。鉄板の上ののせられた経験のある魚が、川に戻ってきて「本当に鉄板にのせられるよ」と言うことはできません。

ところで、皆さんは天国と地獄ということについて、どのように考えていらっしゃいますか？ もちろん天国や地獄に行って戻ってきた人はいません。「私は天国に行ってきました」とか「地獄に行って十分楽しんできました」という人はこの世の中にいません。そうでしょうか？ 信仰というのは、ある点でこのように曖昧なものです。ある意味でギャンブルみたいなものです。すべてを賭ける。何より命を賭けるのが信仰です。自分自身がいろいろなことをやりながら、わきまえながら、これは信じてもよいのではないかと決断する。決心ではなく、決断してこの道、イエス様の教えに従ってみる。それで今、私達は集まっている。

天国と地獄がある、と教会は教えています。それが本当か本当でないかは大切なことではありません。おばあさん達に昔から聞かされた作り話なのかどうか、私達にはわかりません。けれど、それが安全で安定的なものだと信じながら生きることができれば、何かの実がある。イエス様は、よく地獄について話をしている。災とか。でも、怖がらないでください。怖がるべきは自分の心です。その心がちゃんとしていれば、どんな時でも問題ありません。

今から神学的に申し上げましょう。地獄とは何ですか？ 天国とは何ですか？ 覚えて下さい。カト

リックが教える地獄とは、神様から離れることです。天国とは、神様と一緒にいることを意味します。どんな形か模様か、ということは意味がない。私達が信じるべきことのひとつは、天国とは神様とひとつになって一緒に暮らすことであり、地獄とは神のみこころから離れることです。ですから、この世でも地獄を体験します。イエス様・神様を拒みながら、人間的な欲に縛られて意味のないものに命を賭けるなら、そこに神はいない。それが地獄の体験です。誰かを憎む時、殺したいような気持ちになる時、それが地獄です。そこにイエス様はいません。

いつも、天国という言葉、地獄という言葉で心を考えて下さい。すべてのことに練習が必要です。施しをするにも奉仕をするにも、練習が必要です。中には「私は性格的にそういうことはなかなかできません」とか「儲けてテレビにでてくるような金持ちになったら施しをします」と言う人がいますが、とんでもないことです。誰かを助ける時間がない人はいません。寝たきりになっている人も、誰かを救うことができます。心で。いつも「今はできないけれど、後でやります」と言い訳をする。いいえ、練習をせずに、ある日突然何かをやるというのはうそです。可能なことではありません。今の自分の事情に合わせて、その立場で少しずつ練習しなければなりません。信仰も祈りもまったく同じです。「死ぬ時に神様を信じたらいいじゃないか」「私はすぐ罪を犯すから、ぜんぶ罪を犯してから後で悔い改めたらいいじゃないか」。いいえ、罪を犯すのはあたりまえ。私達はその時その時、悔い改める練習をします。信仰も愛も、すべてのことは練習から始まります。練習してそれが身についてきたら、説明できないほどのすばらしい喜びになると私は確信します。

神様がいらっしゃる理由は、あなた方のためです。神様がこの教会を作ったのも、皆様のためです。皆様がいなかったら、イエス様も来られる必要がなかった。司祭もみんなも、心をひとつにしてこのような歩みをすれば、すばらしいことになると思います。

ありがとうございました。